



横浜市立恩田小学校 学校だより 1月号

発行 平成30年 1月9日



つながり合うことの大切さを感じて

校長 古屋 澄人

あけましておめでとうございます。平成30年が始まりました。今年の元旦はとても天候に恵まれ、富士山ははっきり見え暖かな日差しがさしました。夜は冬の大きなこいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウスが光り輝いていました。昨年は、九州地方で天候が不順となり豪雨に見舞われ、年末は北海道・東北地方を中心に豪雪に見舞われました。自然災害は避けることができませんが、今年は暖かな日差しのような穏やかな日々が続いてほしいと思いました。

さて、今年は冬季オリンピック平昌大会、サッカーワールドカップロシア大会が開催されます。また、プロ野球では大谷翔平選手がアメリカ大リーグでも二刀流に挑戦します。日本の選手の活躍を大いに期待したいところですが、昨年も若者たちの活躍が目立ちました。100m走では桐生祥秀選手が日本人初の9秒台を出したのは、記憶に新しいです。100分の1秒を縮めるために、厳しい練習と多くのスタッフの支えがあったからこそ目標を達成できたのではないかと思います。スポーツ庁の鈴木大地長官との対談（毎日新聞デジタル）では、今後の目標を語っている話の中に「来季の一つ一つの試合で、タイムより自分の走りをして、どこが駄目か、どこが良かったかを分析する。それを継続していけば、自分の足りない部分も、ものになると思う。」とありました。将棋界では中学生騎士の藤井聡太4段が公式戦29連勝の新記録を達成しました。元旦の朝日新聞には、藤井さんと経済学者の安田洋祐さんの対談記事が掲載されていました。その中に「相手との勝敗で決まる勝率も大切ですが、一つ一つの局面で最善に近づくことを求めていきたい」という言葉がありました。二人の若者からは、より強くなることを目標にしながらも、自分の強みを冷静に分析してスモールステップを大切にしながら目標達成に向けて日々努力しているということを感じました。

平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果では、「自分には良いところがある」と答えた横浜市の小・中学校の割合は全国平均に比べると低い状況でした。いわゆる「自己肯定感」が低いということになります。自分が愛されて尊重されていると感じることから、自分は大切だという自尊感情をもちます。これが自己肯定感の基となります。そして、自分が大切なら、同じように他者も大切という感覚が育ち、社会性を獲得していきます。自己肯定感、自信をもって物事に取り組み、困難を乗り越える力の源になります。恩田小学校の子どもたちが、自分をかけがえのない存在として理解し、自他を大切に作る心、そして、困難を粘り強く乗り越えていくことができる心を育てていけるよう、職員一同力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。

今年の箱根駅伝は、みごとに4年連続で青山学院大学が総合優勝を果たしました。本校とも関わりがある日本体育大学の追い上げも見事でした。駅伝は日本が生んだ「つながり」を大切にしたいスポーツです。記録よりも母校の「襷」をつなぐためにひたむきに走る選手の姿、そして、その選手を一生懸命支える控えの選手たちの姿に毎年感動を覚えます。本校でも、学校・家庭・地域との「つながり」を大切にしたい学校教育を充実させていきたいと思ひます。

